

報告書

平成28年10月21日

岡山県議会議長 井元乾一郎 殿

議員氏名 内山 登
中川 雅子
荒島 俊造
森脇 久紀
上田 勝義
蓮岡 靖之
(「さわらの会」議連)

派遣の概要は次のとおりでした。

1. 目的 坊勢漁業協同組合が実施している鰯に関する取組についての調査
2. 派遣場所 兵庫県姫路市
3. 派遣期間 平成28年10月20日

【報告事項】

別紙のとおり

さわら議員連盟（さわらの会） 視察報告書

視察内容：坊勢漁協組合での取り組みについて

JF ぼうぜ 姫路とれとれ市場にて漁協の概要説明、水揚げ、せり見学
坊勢漁協組合(家島町にて)「華姫さわら」の取り組みについて

出席者：さわらの会 役員、会員

内山会長、中川副会長、荒島副会長、森脇副会長、蓮岡事務局長
上田会員 計 6 名

説明者：坊勢漁協 岡田組合長、岡田参事、

兵庫県中播磨県民センター姫路農林水産振興事務所
水産課 望月所長補佐兼課長 計 3 名

妻鹿漁港（JF ぼうぜ 姫路とれとれ市場）

水揚げをして即座にせりが行え、隣の施設ですぐに美味しい取れたての魚の
食事ができる。また、惣菜や物産販売、観光 PR コーナーもある。

せりを見学させていただいたが、非常に活気があり、若い方や女性の活躍が
見られた。到着時は鱧やタコなど、午後からは小魚（いかなご、じゃこ、あみ
等）のせりが行われていた。駐車場も完備され、昼時には新鮮な魚が食べられ
るため平日にも関わらず、多くの人が昼食に来ていた。週末は多くの人で賑わ
うそうである。

家島は漁業をするのに大変有利な場所に位置するため、たくさんの美味しい
魚が採れるものの、出荷までに時間がかかるため、本土へ出荷基地をつくる計
画が持ち上がった。その時に、いかなごなど他の魚の販売等地についても域住
民から求められたため、H22 坊勢、姫路、家島、県で推進委員会を設置し、H26
着工、現在のとれとれ市場が完成した。岡山県からも買い付けに来ている。水
揚げ額年 63 億のうち 25～30 億はとれとれ市場で売り上げ。魚食が減る中、姫
路市内に学校給食用食材を 30 万食程度(姫路市 33,000 食、加古川市 17,000 食、
他赤穂、相生等、月 5～6 回程度) 出荷。子供たちの成育に新鮮な地魚を食さ
せることは食育や地産地消においてもよい取組である。

坊勢漁協協同組合

姫路港よりフェリーに乗り込み坊勢島に移動。島と海と暮らしの現場を見てもらいたいとのことで現地へ赴いた。

家島諸島世帯数は（平成18年3月飾磨郡家島町は姫路市と合併）2,214戸、人口は男2,262人、女2,866人（28年6月30日）うち、坊勢では793世帯、2,662人の人口である。2,662人のうち坊勢漁協組合員は501名、島の5人に一人は漁業に携わっていることになる。多い数に見えるが、人口減少や島離れに伴い、組合員数も減少している。また、それに伴い、新造船、新築（儲けが少なくなり、新しい家を建てれない）が減ってきている。漁種は、底曳き、磯端、船曳、海苔、カキ5種目の部会がある。環境保全対策として、廃船処理基金を積み立てている。離島漁業再生交付金を使って海の掃除にも努めている。

華姫さわらの取り組み

朝採れサワラで付加価値を高めて流通させる目的で、神経締め(死後硬直をおくらせる)の方法をとる。

サワラのはなつぎ漁（2台の船で網を曳き20分かけて円をかき、2台の船の先端と先端を継いで円を結ぶ漁）で漁をし、朝採れたものを妻鹿に揚げて午前中に出荷。船の上で神経を締めるため、鮮度が上がる。首に切り込みを入れ、血を素早く抜き、尾が切れないようにぎりぎりのところに切り込みを入れエアガンで空気を送り込み神経を抜く。頭部から白い液体の様なものが出れば完了する。

サワラの値は岡山が決めると言われ、高値が付くことから、岡山へほとんどのものが流れている。サワラの捕獲量についても禁漁や規制をかけ（現在も自主規制をかけ1時間短縮をしている。）、資源回復に努めている。種苗育成は国が手を放したため、サワラ漁をする県で資金と人を出し合い、中間育成を図っている。日生漁協とも親交が深いことから、岡山、兵庫、香川、徳島とサワラに関わる県でサワラをキーワードに魚や瀬戸内資源を含めて協働を図ることが大切である。資金を出し合い、PRや取組の発表を実施すること等を考える上でも、議連が核となって交流を図ることは大変大切であり、有意義であると考え